

門徒へとどけたい  
門徒からとどけたい



特集

# 門徒×僧侶 座談会

— 目次 —

p2 アクション新潟教区「寺泊 養泉寺」

p4 門徒×僧侶 座談会

p9 よもう はなそう 本のオススメ

p10 通信員だより

新潟教区ホームページ



<https://otani-niigata.jp>

# アクション 新潟 教区

【取材先】新潟教区中越11組光澤山養泉寺

住職 倉井 光弥さん  
坊守 倉井 智子さん

寺泊魚の市場通りからほど近く、日本海を見渡せる光澤山養泉寺。住職夫妻にお寺の取り組みについて話を伺った。

## 豊かな心が育つ場所

養泉寺では子ども会行事を2011年から開催している。新潟教区児童教化連盟の若手僧侶と有志の門徒さんの協力のもとゲームや



児童教化連盟による迫力の大型紙芝居

大型紙芝居を中心に行っていたが、10年程前にきもだめしをしたところ、子どもだけでなく親にも大好評だった。子どもの年齢に合わせて怖がらせ度合いを変えながら、子どもたちは懐中電灯を片手にドキドキワクワク、時に絶叫しながら本堂や庫裡、墓地を探検する。重要なのはお寺に足を運んでもらい、楽しかったり怖かったりした経験を通して「今を生きている」ことを実感してもらうことだ。

「お寺は誰もが気軽に来て良い、家庭や学校以外の第3の学びの場でもあり、色々な経験を重ねながら豊かな人間、豊かな心に育っていく場所だ」と倉井住職。また坊守の智子さんは「子どもの時にお寺で遊んだ経験が、



ドキドキしながら自分の順番を待つ子どもたち

困った時にお寺が立ち寄れる場所の選択肢の一つとなってくれたら」と話す。

## 聞法道場としてのお寺

「お寺の役割とは何か」を課題に、各お寺が試行錯誤しながらお寺を開いている。倉井住職は「お寺は教えを学び、語り、伝えていく聞法道場としての場であることが根本だ。現代を生きる人々の感覚や生活の変化に関心を向けながら、お寺として出来ることを実施し続けていく」と話す。

養泉寺では今年4月から、正信偈の本を開いたことのない方の学びのきっかけとなることを願いとした「正信偈はじめの一步講座」を開始した。まず一緒に赤本を開いてみて何が書いてあるのか、お勤めはどういうふうにするのかを共に学ぶ、全6回の講座だ。現在5人の方が参加していて、今後は昼間に参加できない方を対象に夜の部を開くことも検討中だ。小規模な場だからこそ参加者の要望に



住職が書く  
山門の伝道掲示板

柔軟に対応でき、直<sup>じか</sup>の声を聞き語り合い共に学ぶことができる、そのような場を継続して開いていくことを目標としている。

## 新たな教化のかたち

養泉寺の周辺は寺社が多く、観光客が御朱印帳を持って訪ねてくる。初めの頃は「浄土真宗に御朱印はない」と断っていたが、せっかく来てくださった方が、「本尊の前に座り、教えに触れるきっかけになれば、と法語印を始めることにした。「山門掲示板の言葉なら…」と家族で挑戦するもなかなか思うように書けない。そんな時、坊守の智子さんがせっかく書くなら自信を持って書きたい、と模索<sup>もさく</sup>する中出会ったのが、温もりのある「伝筆<sup>つてふで</sup>」という表現方法だ。

当時はコロナ下で時間はあった。オンライン講座を受講し講師資格を取得、本格的に法語印作成に取り組みることになった。そして季



季節感あふれる法語印



法語印作成の様子

節感と彩りを添えた伝筆法語印が誕生した。

また最近では、法語印と一緒に渡すハガキサイズの解説がとても喜ばれている。掲示板のスペースには限られた文字数しか書けないので、どういふことを言っているのか伝わりづらい。「なるほどそういう意味か」と納得してもらえたり「これってどういうこと？」と反応が返ってくるようになった。

「教えの言葉の前で立ち止まり、答えを示すのではなく問いが生まれるような言葉との出会い、それもまた教化だと思っている」という倉井住職の言葉を聞き、教えの言葉の数々はかならず誰かの心に届き、きつと新しい息吹をあげているに違いないと感じた。

【2025年4月25日】

伝道広報室 富樫 沙織

真宗大谷派 光澤山 養泉寺

〒940-2502 新潟県長岡市寺泊一里塚  
3883番地

TEL・FAX 0258-75-2210

養泉寺ホームページ



掲示板の言葉、法語印を  
掲載しています。



ご住職と坊守さん

※伝筆<sup>つてふで</sup>…伝(つて)をつくる、たどる、広げる、深める、温かい心のこもった気持ち伝える文字のこと。筆ペン一本あれば、半日で誰でも描くことができる魔法のような筆文字。

門徒 × 僧侶 座談会

座談テーマ「寺離れ」



**僧侶** 佐々木 恵一郎 さん  
(新潟教区教化委員会本部長 / 第10組行通寺住職)

**僧侶** 藤島 直 さん  
(新潟教区教化委員会副本部長 / 第1組圓照寺住職)

**門徒** 宮越 節子 さん  
(第6組法林寺)

**門徒** 清澤 明 さん  
(第8組勝名寺)

**門徒** 深井 宏隆 さん  
(新潟教区伝道広報室委員 / 第6組最尊寺)

門徒と僧侶のつながりを願う中で挙がる「寺離れ」の問題。今回はその問題をテーマに座談会を企画し、門徒・僧侶それぞれの立場から自由に談話していただきました。

お寺との繋がりについて

**藤島** 皆さんはどこでお寺と繋がっていると思われませんか。私はやはりお墓というのが一つのツールではないかと思えます。それが信仰の本質ということではなくて、我々お寺とご門徒さんを繋ぐ、一つの媒介するものとしての位置づけがあると思うんです。私のお寺に墓地はありますが、新しくお墓が建つことはほぼ無いです。あるのは墓じまいです。お寺か地域の共同墓に改葬するところが増えてきました。今、全国でも墓地の問題が出てきていますが、特にお彼岸とかになるとその事は肌で感じられますね。

**深井** 私が門徒になったきっかけをお話します。私の父の実家は、真言宗のお寺の檀家でしたが、三男である父は家を出て、母と新しく家を建てました。そのため、私の家はお手次のお寺が決まっています。父が病床に伏した時、お寺をどうするか母と相談しました。遠くより近くにあるお寺の方が墓参りも行きやすいね、という結論に達し、母の実家のお手次の最尊寺さんをお願いして、門徒になったのです。私は退職後、最尊寺のご住職からのお誘いで、親鸞さんの教えに触れる機会が増えました。

**佐々木** お墓がお寺とのご縁を結ぶことはありますね。ただ最近のお墓参りは、お彼岸やお盆の時期でも、土日に来る人の方が多いですね。やはり自分の生活が中心になってきて、信仰はだんだんと外になってきているような気がします。だから寺離れというのも、そういった影響があるのかなと思います。

**宮越** 子どもの頃は、お寺っていうと「年寄の行く場所」って感じてました。私の実家の方はみんな自分の家の屋敷にお墓があるので、いつでもお墓参りができました。10キロ程離れたお寺まで行くのは、お正月とお盆、それに報恩講くらいでした。高田へ嫁いでは、お正月、お盆、お彼岸、報恩講は必ず行きます。お手次の法林寺さんは、廃寺になったお寺のご門徒さんも受け入れていて、寺離れている様子はなさそうなんです。お寺の護持会も、役員さんは大変かもしれませんが、一生懸命まもってくれていますのでありがたいです。お寺の自慢になります。仏具のおみがき奉仕を春夏秋冬、年4回やっているんです。大体20人前後で一時間半、もう皆さん黙々と、慣れた手つきで作業して、終わると『正信偈』をおつとめします。またお寺の移動同朋会にも参加するので、お寺へ行く回数が増えます。

**佐々木** うち先代の時から、お手伝いさん一人に頼んでお寺の人と一緒にやっています。今「寺離れ」がテーマですが、お寺側が「門徒離れ」をしているんじゃないかと思っています。お寺側がもう面倒くさくなって、「じゃあ自分たちでやるよ」ってなっちゃって、ご門徒さんに声を掛けるのを辞めちゃう。そういうのも原因になっているのかなと思います。

## 現代のお寺の役割とは

**清澤** 私は「寺離れ」という遠大なテーマを受けまして、まず全国のお寺の数は2040年に現在の40%減少すると言われています。人口は7000万人になりますので、それを考えると寺の数が減るのは必然だと思います。ですが、日本の檀家制度を作り上げた江戸時代、人口は3000万人程度だったにも関わらず、みんなお寺に守られていました。檀家制度ということもあったかもしないですけど、それなりにお寺と民衆は近寄っていました。日本文化は、少なくとも江戸時代には精神生活において豊かであり、仏教徒としてお寺に頼るところがあったんだろうと思います。今、日本は豊かですよ？でも精神生活となると悩んでいる人はたくさんいます。お寺に観光に訪れることはあっても、泣きながら仏様や住職に向かって悩み事や孤独感を

訴えるようなことは無いです。少なくともそのようにお寺が人々に寄り添いをしていない限り、これからはお寺に足を運ぶ人は少なくなるばかり



です。行事にだけ来る人は、毎度同じメンバーになって、若い人は来ません。月参りなどでも命日が土日にならなければいい、という状況になっています。対応するのも年寄りや若い人は一切そこにいません。そういう状況の中で、お寺さんにとって月参りなどが生活基盤だとしても、それで寺離れを食い止めることはできないでしょう。頼りになる、人が求めているニーズに合うようなお寺さん、お坊さんとしての意識の改革が求められているんじゃないでしょうか。お経を読んで、親鸞聖人の教えを勉強することも大事ですけども、門徒の皆さんが一人ひとり抱えている悩み事について、どれだけ相談相手になっていくかどうかっていうのは、今一度考えていただきたいと思っています。

**藤島** 本当に仰るとおりです。我々の努力不足というのも当然あると思うんですけど、旧高田教区においてもそういった問題について取り組んだことがあります。その時、僧侶側の言い分として出てきたのは、特に兼業されているお寺が、寺の維持と生活に汲々としているというのが現状で、どの社会もそうですけど、自分の生活で精一杯と言いますか。報恩講もできていないお寺もあって、そういったお寺でも月参りなどでしょうか。ご門徒と関係を繋いでいるところもありません。

**清澤** できない状況は分かんなくてもないですけど、やりたいという気持ちや門徒側にはないですよ。やってほしいという声や怨嗟のように沸けば、お寺も黙ってないでしょう。

## 報恩講へのお参りについて

**宮越** 自分のお寺は報恩講ありますけど、例えば同じ組内なら同じ日あまりやりませんよね。ですから、やる日の一覧表でも作っていたら、そうしたらどこでその法話を聴きに行きたいなって思えば行くことができますね。

**佐々木** うちの10組では「報恩講カレンダー」を作りました。中越11組で作っているのを聞

いて、同朋総会でご門徒さんがちょっと作ってくれないかって、苦節2年かけて、今年の3月に発行しました。やはり組内でも報恩講をやってないところとか色々な事情で出せないところもありました。それでも一覧表にしてご門徒さん全てに配りました。結果どうなるでしょうか。隣のお寺のご門徒さんが来るのかどうか。でもこういったアクションを起こしておくことで、「報恩講ってあるんだ」「余所のお寺はこんな先生が来てるんだ」という宣伝に繋がるので大事だと思います。

**宮越** いいと思います。別にお斎とかは無くても良くて。お話もあんまり難しすぎると頭に残らないので、ありがたい法話をしてもらえるようなところだったら、行きたいです。

**清澤** 私は自分のお寺に行くのは当たり前ですけど、その他に高田13組のあるお寺にも呼ばれます。ですからそこへ行くと「清澤さん、いつからうちの門徒になったの?」って言われます。もうそのお寺の門徒よりも偉い顔をして、たくさんお喋りをします。それぐらい親しくなるようなことをしていますけど。要するに、自分のお寺の状況を知るためです。他のお寺を見れば、自分のお寺の良いところ、悪いところが見えてきます。そういう幅広い活動をしているんですけど、やっぱり

り門徒が多く寄せるところはそれなりの工夫をしています。報恩講に行く勉強になりますね。

## お寺と社会との関わり方について

**清澤** 寺離れ問題というのは、人との結びつきですよ。現代人ほど、孤独を抱えている人はいないです。お坊さんが兼業で職業を選ぶなら、少なくとも寺を密接に補完できるような仕事がいいんじゃないかと思います。昔、江戸時代は寺子屋があったわけです。現代も兼業で多いのは教員ですよ。2000年に介護保険法ができて、その時になぜお寺が介護の問題についてもっと取り組まなかったのでしょうか。介護福祉士になるとか、境内に介護施設を設けるとか。あるところもありますけど、少ないですね。

**藤島** それはやはり色々な問題があったりしますからね。清澤さんは後見人をされているということですけど、そういった人たちのお葬式とかはどうなさっているのですか?

**清澤** 成年後見人を仕事にしている人たちの集まりがあります。一番問題になるのは葬儀です。お寺さんとの付き合いをどうすればいいのかと質問が出るんですよ。答えられるのは私か、私と同じ社会福祉士のお坊さんで

す。お寺さんどうやってお付き合いをして、無縁仏にしないためにどうするか。天涯孤独で独り身の人は仕方がないので直葬という形になります。市役所や裁判所は亡くなった人をそのままにはできないので、後見人が事後の仕事として受けもって、直葬としてやってくれと言われることが多いですね。ですから人情的にね…。

**佐々木** 私もついこの間、法事で行ったところの息子さんが福祉関係の仕事をされていて、今、身寄りのない方は火葬場でお骨も残らないように跡形もなく焼いてしまうという話を聞きました。実際にそういうケースがあるんだって思ってもどうすることもできなくて。何か宗教の手が入らないものかなって、やるせない気持ちになります。

**清澤** 生きている人間が死を迎える時、それはそれで問題なんでしょうけれども、私からすると、人間の悩みというものは太古の昔からずっとあり、その抱えている問題をどうやって解決するかということを考えます。やはり仏教はそれを請け負うべきだと思っています。今、何でも病気にかかるとお医者さんに行きます。それは否定しませんが、精神的な心の病となると、これにはやっぱり仏教、お寺さんが関わっていただきたいと思



悪い点もありまして。やはり自分で宗教を選べないこと。生まれたら私たちは浄土真宗だ、真言宗だって決められているわけです。お坊さんも生まれたら、本当は坊主になりたくないのに、と言いながら世襲でなっています。この世襲制、自分で選べないことを打破しない限り、永遠に寺離れは解決しないでしょう。

**藤島** 門徒さんの信仰というのは、言われているように世襲だったりするので、そういったものを打破して…。そもそも同朋会運動ってそういう運動だったはずなんですよね。一人ひとりの自覚の上に信仰というものを成り立たせていこうというものだったんですけど、ご指摘の通りそのなかにズッポリとはまって抜け出せずにいるのが現状。むしろ社会が個人というものから離れていってしまっただけ。社会の個人主義が加速していったら、我々はそれについていけなかった。

**佐々木** だから「家の宗教から個の自覚の宗教へ」って言うていましたね。ただ個人に自覚を求めたもの、お寺は自覚しきれなくて、結果的にそれがまた寺離れを生んでいるような気がします。だから信教の自由があって、これからは選んでもらう。選ばれるという意識が、同朋会運動の時に、お寺側に欠落していたんじゃないのでしょうか。先祖からやっ

ているから、うちは選んでもらえるだろうって。そういう中で同朋会運動が進んで、実際信教の自由になってそれが進んでいくと、選ばれることも捨てられることもあります。そういうお寺の自覚っていうか、どうしていくんだっていう覚悟ですよ。そして親鸞聖人の教えをどう広めていくか、ここがポイントだと思います。葬式の数を増やせば、お寺の経営的にはいいのかもしれませんが、果たしてそれが聖人の教えを広げることに繋がるんだらうかと思います。

**清澤** 日本の仏教で人気の人が誰かと言えば、断然「親鸞」が多いですよ。あの時代に妻帯して子どもを作るといって、方々から村八分にされることの常識を覆しました。この「親鸞」の人気というものをもうちょっと前面に出して、聖人が説いた南無阿弥陀仏の教えを皆さんに伝えて、人は何のために生きているのか、その迷っている姿、孤独感を仏教に縋って回復してもらえればと思っています。

### やりとり

**佐々木** 繋がっていくことの大事さ、そしてそれが寺離れを少しでも防げるのではないかと感じました。過疎化を食い止めることは難しいですが、その中で抗っていけることはあると思います。門徒さんをお願いするところ

もありませんが、お寺の方もしっかりしていないといけないと、お叱りを受けたような気持ちです。

**藤島** 本当に参考になりました。新潟教区の一つの目標は「一カ寺に聞法の間を開く」ということですが、やはり「繋がり」ということと「傾聴」。お寺をみんなが寄れる場にするということは、住職一人の資質ではなかなか難しいですけど、門徒さんと一緒に意識し合いながら「一カ寺に聞法の間を開く」と、またそれを後押しできるような活動が教区として必要ではないかと思う次第です。

(おわり)



# よもうはなそう

本のオススメ

## ちがいを 考えてみる

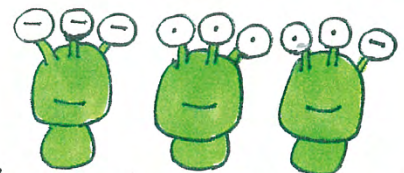
みんなと同じじゃないと不安ふあんだよね... そう思っているなら読んでみて!  
ワタシとアナタ 同じように見えても  
考えたことやかんじたことは同じなのかな?



宇宙飛行士のぼく  
いろんな星で  
いろんな人にあったよ

目の見えない人が  
「見る」世界は  
ぼくとは  
大きくちがっていたんだ

同じところを  
さがしながら  
ちがうところを  
おたがいに  
〇〇〇〇ねば  
いいんだね



【オススメした人:トラメイシ】

# 通信員だより

## 通信員からの声を

### おとどけします

新潟教区は27の組にわかれており、教区内の情報共有を主な目的とした「通信員」が、各組から1名ずつ担当していただいております。毎号全カ組の半分を掲載いたします。

#### 第6組 福成寺 鎮西 広円

第6組では、春と秋に組内の各ブロックにおいて宗祖親鸞聖人講座と題して聞法会が開催されます。ブロックごとに内容は同じですが、講師が違うのが特徴です。春の講座では関東での教化についてが内容となっていました。飢饉の最中で『浄土三部経』の千回読誦を途中で辞めて念仏することを決められた親鸞聖人の思想を考えた時に、自分自身の日々の生き方はどうだろうかと改めて念仏申すこと含めて振り返ることになりました。

#### 第7組 願生寺 平出 文勇

第7組では、去る4月16日の事前学習会を皮切りに第14次同朋の会推進講座（全6回）が開かれました。第1回から講師に第1組光徳寺住職 水嶋聡氏を招いて『親鸞生涯と教え』をテキストに学ばせていただきます。第3回は7月16日、第4回は9月17日、第5回は10月15日、いずれも13時から。聴講、参加費は無料です。是非、この機会に新井別院にお気軽にお越しください。「人間としてほんとうに生きる人」になりたいと思いませんか？親鸞聖人と共に訪ねて参りましょう。

#### 第8組 明岸寺 法隆 光昭

4月13日、上真砂の勝名寺報恩講が厳修されました。ご法話は糸魚川市青海の光徳寺、水嶋聡師。勝名寺住職龍山智榮師が還浄され日も浅く、偲びつつのご法話でありました。

以前、「南無阿弥陀仏に意味はない、という法話をどう思うか？」と、智榮師は水嶋師に問われたことがあるそうです。その真剣な表情が忘れられない、と。帰宅し、白衣をといっていると、鶯がホウラキケと鳴きました。

#### 高田11組 高徳寺 外立 学

5月に入ってやっと家の前の雪が姿を消した。これまでサボっていた冬囲い外しをしなければいけないし、雪で倒れて横になっている竹も切りたい。山へ山菜取りにも行きたいし、畑にジャガイモも植えたい。あれもしたい、これもしなければと頭の中でいろいろとやりたいことを考える。

「欲張りだなあ」と自分のことを思う。欲を出さなければ、頭も身体も心も楽になるのに。あーあ、楽になりたい。「不断煩惱得涅槃!?!」

#### 高田12組 福正寺 矢嶋 一樹

当高田12組では同朋会は稼働しているのは2地域だけで、活性化が望まれていた。そんななか、高田エリア独自の取組みとして「指定同朋の会」という事業が立ち上がり、年間の枠を指定して講師の斡旋そして出講法礼、会所謝礼、スタッフの会釈まで負担して法座を開いている。昨年は上越市吉川区梶の性徳寺さまが指定を受け5回の法座を開催し、1回転が終わった。本年度からはご住職を中心に独自テキスト作成し継続しておられる。また、今年度からは、上越市吉川区原之町福正寺で開催されている。各地域に法座が当たり前のようにあり、気軽に参加できる会を目標に続けていきたい。

#### 高田13組 福浄寺 井上 立英

高田13組の通信員の井上です。これからよろしく願ひ申し上げます。

高田13組では先日蓮寺様に於いて「宗祖親鸞聖人七百五十回 御遠忌法要 兼 蓮寺開基四百年法要 本堂内陣改修落慶法要」が勤まりました。3日間の法要でしたが住職と御門徒の皆さん、各御寺院、大勢の人達の力が合わさり無事に円成いたしました。

私自身も法要に関わらせて頂き、改めて「お寺」とは様々な皆様の「想い」や「願い」によって支えられているという事を痛感いたしました。

この度の御遠忌法要に遇えたことに感謝申し上げますと共に、私自身の学びとしてこれらの聞法へ繋げていきたいと思えました。

#### 第14組 正厳寺 相川 町子

##### 「14組の共学」

第14組には「教学」ではなく「共学」がある。途中、共学・社会問題研修会と名を変えてきた。12月から2月を除き毎月28日に報恩講のお勤めをし、寺の生活上の疑問を話し合っている。この場でのお勤めは、練習という位置付けもあり、各々思い切り声を張り上げ、沈没する人もいる。それも良しとして、失敗を恐れず声を出せる場がある。しかし、悲しいかな参加者が少ない。もったいないことである。また、外部から講師を招いて行う年2回の聞法会も大きな魅力であろう。この聞法会は、組を問わず、どなたでも参加できる会なのである。

第15組 長泉寺 石塚 祐堂

組主催の同朋の会推進講座「いのちの輝き発見塾Ⅷ」が3月23日に始まりました。

講師は細川好圓師（第17組護念寺）で、受講者は23名です。

真宗中興の祖・蓮如上人は「一宗の繁昌と申すは、人の多くあつまり、威の大きな事にてはななく候。一人なりとも、人の、信を取るが、一宗の繁昌に候」と申されました。この講座が念仏者の生まれる御縁となればと願っております。

第19組 善精寺 桑原 俊裕

初めて私よりも若い方の葬儀を行った時の事。私には本意の意味での「お通夜のような」空気を覚悟した。重く張り詰めた静寂、時折聞こえるすすり泣き……天寿を全うした方の葬儀とは全く異なる空気を。そんな私の懸念を吹き飛ばすように鳴り響いたのは、幼い子供達の燥ぐ声、駆ける足音。儀式途中に私の前にまで駆けてきた幼い子と、慌てて追いかけてきたお母さんの姿に口元が緩む。そんな「未来の足音」に、その日は私は救われたのだ。

第20組 樂運寺 関 了悟

組内で法語ポスターなどを作る部門にいる。毎年スタッフで数案出し合い、投票して5種類程のポスターを作っている。デザインも様々だ。今年もスタッフに1枚手書きで書いてもらった。

第16組 願念寺 鈴木 淳子

思っていることをお話させていただきます。10年程前父の担当医師に「生きている人はわたしが担当だけれど、亡くなった後はあなたの方が専門」と言われ、何も返せなかったわたしにずっと引っかかっています。

担当医師の言葉は世間一般の、至極代表的な考えだと思えます。

仏教＝死後の世界・葬式仏教など浸透しているニュアンスがありますが「仏教も生きていく人のためのものだ」とわかりやすい言葉でスラリとお伝えできるようになるには、と日々悩んでおります。

「晴れた日には枝がのび 雨の日には根がのびる」枝と根がびろーんとしている。当たり前のことだけど、翻ってみると私たち人間は目に見える程度のことだけで良し悪しを決めているんだなあ。晴れようが雨が降ろうが、木々はそのまます受け入れていくしかない。「自然法爾」というのを改めて認識させられる。「あるがままの心で生きられぬ弱さを 誰かのせいにして過している」30年位前に誰かが歌っていたのを思い出しているから争いばかりになつてしまふのかな。国や宗教や家族間でも。



第23組 慶誓寺 泉 智慧

「子は親の言うようにはしないが 親のするようになる」保育園のお迎えの道中、お寺の法語が視界に入りドキッとしました。見て見ぬふりをしていただけに釘を刺された、そんな気持ちです。

我が家の4歳児は好奇心旺盛で毎日大騒ぎ。頭ごなしに叱ってしまうけれど、自分はどうなの？と言われた気がします。

自分の糧となる言葉、ハッと気づきを与えてくれる言葉に出会えることは有難いことです。この度通信員を拜命致しましたので、もがきながらも精一杯務めたいと思います。

第24組 正念寺 渡辺美奈子

平成30年から計画した本堂庫裡建設事業もようやく完成が近づいてきました！

現在は渡り廊下工事中で、落慶法要は10月に予定しております。

もうしばらくは工事中ですが、お近くへお越しの際はぜひお参りください。



佐渡組 専得寺 金子 英弥

佐渡組では、推進員主導で「つきいちのつどい」を開催しています。会場は組内の寺院を順番に回ります。2時間で「お勤め練習」「法話」そして「座談会」をします。20名程の参加です。一番大切に面白いのは座談の時間です。話題は自由なので、普段その方が思っている事をありのままに聞けます。参加を重ねるうちに、私は座談での皆さんの話を聞いて、ホッと安心できる様になりました。自由な発言に素直にうなずける、そんな気持ちを持つ様になったのです。とてもありがたい、と思っております。

各組の研修会や法話会の日程も確認できます

「浄土真宗の法話案内」のサイトで全国各地の法話会日程を見ることが出来ます。通信員の皆様にはサイトへの各組の研修会や法話会の情報提供をお願いしています。教区HPにもこちらのサイトに掲載された新潟県内の法話会情報が表示されます。



<http://shinshuhouwa.info/>

# 法語ポスター紹介

(2024年度②)



「人身受け難し いますでに受く 仏法聞き難し いますでに聞く」

出典：『真宗聖典』巻頭「三帰依文」

筆耕者：上宮 瑞希 (糸魚川市 小学校6年生 [筆耕時])

〔法語選定者より〕

この言葉は、『真宗聖典』や『真宗大谷派勤行集(赤本)』の最初に掲載されている「三帰依文」の出だしの言葉であります。人として生まれることの難しい中、今、人として生まれ、さらに仏法のご縁に出会うことも大変難しい中において、仏法を聞くことができただけという内容です。

人として生まれたこと、仏法に出会い、聞くことができたことは、決して「当たり前」ではなく「有難い」ことであるということ、このたびの新潟教区発足を機縁として、出会い難い御同朋とともに聞法する中で改めて確認することができればと思います、この言葉を選定いたしました。

藤 認 信 磨

(新潟教務所長)

## 編集後記

「ののさま、あそばせてください」  
今日も子ども園の子どもたちがお寺に遊びに来る。手には境内の石ころを宝物のように握りしめている。その宝物は「ののさまの石」なので持って帰ることはしない。子どもたちの何気ない姿に「お寺は誰のものか」という問いが湧き起こる。

お寺に住んでいるから見えないこと、また逆に身近すぎて見えていないことがある。普段お寺の中にいるので、今回担当した取材は私にとってもはや大冒険だったが、外に出て話を聞くことが私に必要なことだったと感じた。見えていないことがたくさんあることは恥ずかしいことなのかもしれないが、同時に喜びもある。

「せっかくのお寺、皆さんに踏みしめていただいて、汚していつてほしい」との倉井住職の言葉、「お寺は誰のものか？」に答える言葉と受け取った。これからの「お寺作り」の道しるべとしていきたい。  
(富樫)

発行所：真宗大谷派(東本願寺)

新潟教務所

新潟県三条市本町2-1-57

TEL 0256-333-2805

発行者：藤 認 信 磨

編集：新潟教区伝道広報室

制作：永田印刷株式会社